

# 島根県立 古代出雲歴史博物館 NEWS

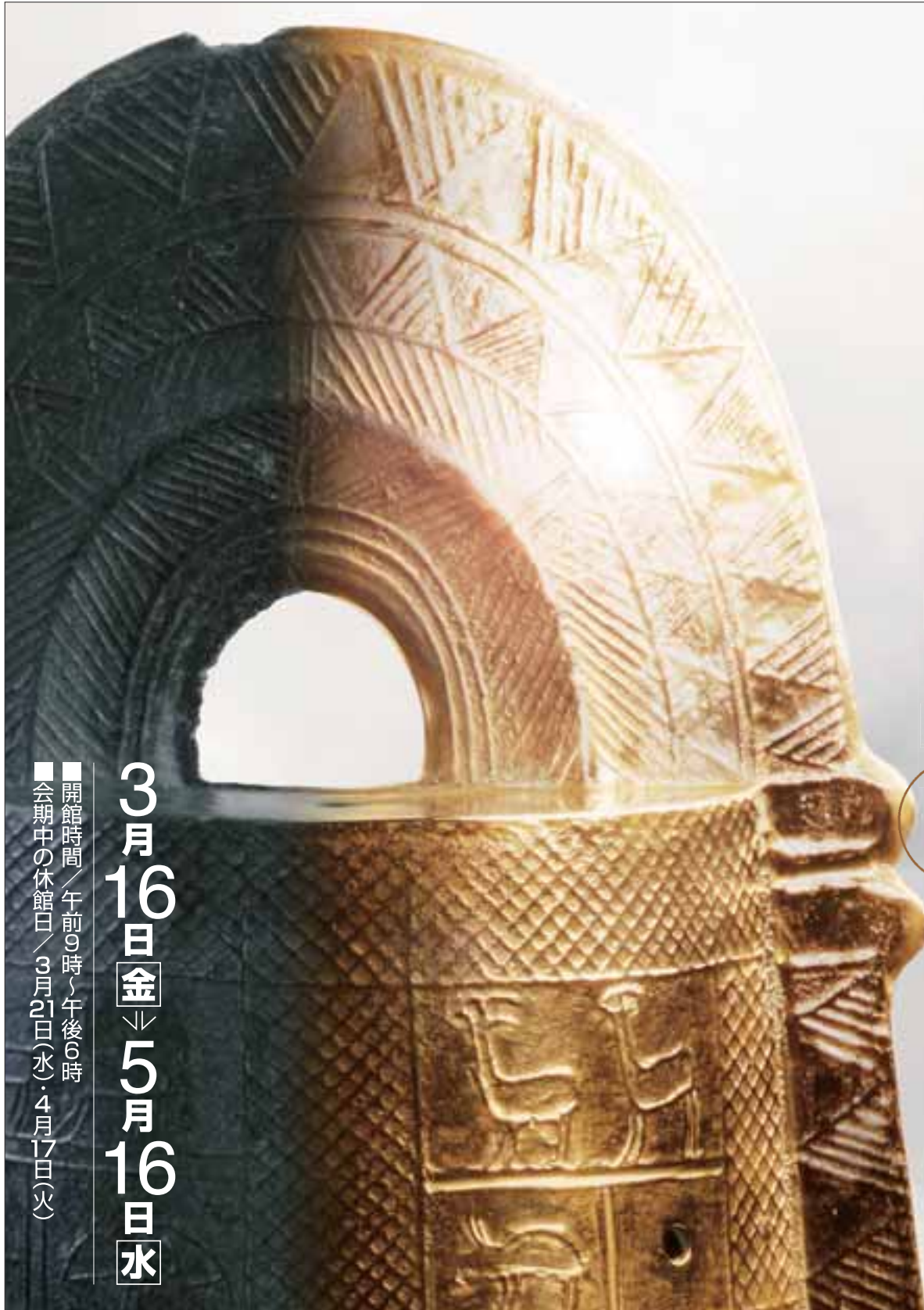
2012.FEB vol. 21

開館5周年  
記念号



## CONTENTS

- 2・3 企画展「弥生青銅器に魅せられた人々」特集
- 4 開館5周年      5 古事記1300年
- 6 博物館だより／まいぶんセンター通信
- 7 古代文化センターだより／アテンダントからのお知らせ
- 8 れきはくごよみ／出雲大社特別拝観



開館5周年企画展

# 弥生青銅器に 魅せられた人々

その製作技術  
と祭祀の世界

3月16日金 ↓ 5月16日水

■開館時間／午前9時～午後6時  
■会期中の休館日／3月21日(水)・4月17日(火)

企画展 開館5周年記念

# 弥生青銅器に魅せられた人々

## —その製作技術と祭祀の世界—

国宝・荒神谷遺跡出土青銅器、加茂岩倉遺跡出土銅鐸に代表される全国屈指の青銅器群は、出雲の古代文化を代表するものとして知られ、この地に強大な政治権力が存在した証拠とも言われています。この展覧会では、国内で青銅器生産が開始され、青銅器とそれをを用いるまつりが浸透していく中で各地に花開いた、地域独自の「青銅器文化」を紹介します。そして未曾有の大量青銅器の保有へと舵を切っていった、出雲の「青銅器文化」の実像に迫ります。

### 第1部 弥生青銅器の世界

金属製品が珍しかった時代、青銅器は祭器として弥生人のまつりに広く取り入れられました。青銅器の歴史とバリエーションを復元品などを用いて分かりやすく展示します。



重要文化財  
隈・西小田遺跡第7地点出土銅戈  
福岡県

### 第2部 青銅器文化の広がり

祭器として各地に普及した青銅器は、やがて各地で変容を遂げながら、独自の「青銅器文化」をつくりだしました。北部九州、瀬戸内、四国南部、関東など、各地の代表的な青銅器を紹介しながら、弥生人が追い求め、形作っていった青銅器とまつりの多様性を明らかにします。

### 第3部 青銅器に魅せられた人々の世界

弥生時代のなかば、出雲の人々は青銅器の魅力に目覚め、前代未聞の大量所有を目指しました。しかし驚くべき数を誇った青銅器群は、やがて表舞台から忽然と姿を消します。国宝・荒神谷、加茂岩倉青銅器群を手がかりに、史上最も青銅器にこだわった人々の想いに迫ります。



重要文化財 検見谷出土銅矛  
佐賀県

### 第4部 弥生青銅器の匠に迫る

青銅器の製作、それを実現するためには、多くの技術的・物理的困難が立ちふさがっていました。鑄造復元実験の成果や最新研究をもとに、当時の青銅器製作技術から垣間見られる弥生人の匠の技と、幾多の困難を乗り越えてまで彼らが求めたものは何か、紐解いていきます。

## 弥生青銅器に魅せられて

古代出雲歴史博物館 主任学芸員 増田 浩太

弥生人たちは、なぜ青銅器をまつりの道具としたのでしょうか。

金色に光るその輝き、青銅の織りなす独特の音色、金属器ならではの重量感、他に類をみない特徴的な形…

青銅器の持つ様々な特徴が、彼らの心を動かし、祭器としての付加価値を与える理由となったことは間違いありません。鋭い刃を持たない銅矛や、鳴らすことも困難な程巨大化した銅鐸に、道具本来の機能は全くありません。彼らにとって、青銅器に自分たちが込めた「想い」こそが求められた機能だったわけです。弥生時代、青銅器は貴重であり、その生産は限られた場所で行われていませんでした。しかし様々な困難を克服してまで、彼らには青銅器に込めるべき強い「想い」があったのです。

今回、展覧会のタイトルは青銅器に「魅せられた人々」としました。それは、弥生人たちの「想い」に触れてこそ、青銅器とそのまつりの本質に迫れるのではないかと考えたからです。展示室には各地の、そして出雲の代表的な青銅器が並びます。青銅器の名品展としてご覧いただいても、十分に楽しめる展示品が揃っていると自負しています。しかし、できることならば、個々の青銅器から一步離れ、青銅器に魅了され、青銅器にこだわった弥生人たちの「想い」も感じ取っていただければと思います。自分にとっての熱い「想い」を青銅器に込めてみるのもよいかもしれません。

この展覧会を観覧された皆様も、「魅せられた人々」の一人となっただけならば、同じく青銅器に魅せられた学芸員として嬉しく思います。

講座

青銅器製作技術と  
出雲の青銅器

■4月7日(土) 13:30~15:00  
■講師/増田 浩太 (古代出雲歴史博物館 主任学芸員)

出雲における青銅器文化(仮)

■4月28日(土) 13:30~15:00  
■講師/吉田 広氏 (愛媛大学ミュージアム准教授)

【場 所】 古代出雲歴史博物館 講義室  
【参加費】 無料  
【定 員】 100名  
【申込み】 電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームにて受付。定員となり次第、締切とさせていただきます。

イベント

蠟鐸職人と  
銅鐸博士の銅鐸鑄造実験

■3月25日(日)・4月22日(日)・5月5日(日)  
いずれも11:00~/14:00~  
<1日2回>  
■場所/エントランスホール  
■参加費/無料



座談会

出雲の青銅器に  
まつわるエトセトラ

■5月6日(日) 13:30~15:00  
■増田浩太・劉治国 (元古代文化センター 特任研究員) ほか

【場 所】 古代出雲歴史博物館 講義室  
【参加費】 無料  
【定 員】 100名  
【申込み】 電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームにて受付。定員となり次第、締切とさせていただきます。

ギャラリートーク

企画展担当学芸員による  
展示室内での解説です。

■3月24日(土)・4月21日(土)・5月4日(土)  
いずれも11:00~/14:00~  
<1日2回>

●当日、企画展室前で受付。  
企画展観覧料、パスポートが必要です。

「YEN Calling with 銅鐸」

—銅鐸に魅せられた僕らのライブ&トーク—

銅鐸の音に惚れ込んだミュージシャンと銅鐸フェチな学芸員が繰り広げる、  
アカデミックで超マニアックな新感覚ライブ

◎4月15日(日) 13:30~15:00  
◎大社文化プレイスうららだんホール (定員600名)  
■出演: 福岡ユタカwith「横川理彦」「矢壁アツノブ」「whacho」  
増田浩太 (古代出雲歴史博物館 主任学芸員)

参加費無料  
申込不要

●福岡ユタカ(YEN CHANG)プロフィール/作曲家、フリーボーカリエーションアーティスト、プロデューサー。島根県浜田市出身。ミュージシャン・作曲家として活躍中。映画「どろろ」、Nスタ(TBS系)、「出雲大社」NHKスペシャル、宮本亜門演出「金閣寺」(原作三島由紀夫)の音楽監督を担当、TVコマーシャル多数。近年は石見神楽とのコラボレーションも行っている。



# 古代出雲歴史博物館 開館5周年を迎えて

古代出雲歴史博物館 館長 野村 純一

古代出雲歴史博物館は、3月10日に開館5周年という記念すべき日を迎えます。平成19年3月10日の開館以来、今日までに、およそ140万人近い方々に来館いただき、順調に発展してまいりましたことに感謝いたします。

当博物館の使命は、①県民の皆様へ、古代出雲に象徴される島根の歴史文化への認識を深めていただき、地域への誇りと愛着を持っていただくこと、②県外の皆様に向けて、全国的に見ても特色のある島根の歴史文化を大いに情報発信し、島根の存在意義を構築すること、にあります。この5年間、3つの展示室からなる常設展示、特別展示室における企画展等を通じて、島根の歴史文化を紹介するとともに、様々な交流・普及活動を通じて、いささかなりとも使命の一端を果たせたものと考えています。

当博物館は、荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡の419点にのぼる国宝の青銅器を、実物で展示する全国にも稀な博物館、島根県古代文化センターでの3年間の調査研究の成果を、4年目に企画展として展示するなど研究を重視する博物館、地域の学校・団体、各種施設、文化財行政とも密接に連携する博物館、ゆったりとした敷地と良好な自然環境に恵まれた博物館としても、全国から高い評価をいただいていることは、嬉しい限りです。

開館からの5年間は、全職員が一丸となって、ただただ必死に走り抜けてきた感がありますが、この間、博物館を運営して、初めてわかったこと、気がついたことなども多々ありました。今後は、更に5年後の開館10周年を見据えて、原点に立ち返り、新たな課題を解決しながら運営に努めていく所存です。

現在、島根県では、今年が古事記編纂から1300年の節目の年に当たることから、官民あげて「神々の国しまねプロジェクト」に取り組んでいます。その事業の一翼を担う当博物館も、このプロジェクトをバネに、これまで以上に、地域と密着し、全国に情報発信する博物館を目指してまいります。特に、当館のアテンダント一同、笑顔とおもてなしの心をもって、来館者の声を大切に、十分に満足していただける博物館となるよう努めてまいりますので、皆様のご支援をお願いいたします。



## [神話博しまね]

# よみがえる はじまりの物語 神話博しまね



よみがえる はじまりの物語  
JAPAN MYTH EXPO IN SHIMANE  
神話博しまね

〈会期〉平成24年7月21日(土)～11月11日(日)開催

114日間

古事記編纂1300年を記念し、出雲大社周辺を主会場に、島根県内各地を訪ね歩き、地域の魅力を体感していただくイベントを開催。

詳しくは、<http://www.shinwahaku.jp>

# 古事記1300年・出雲大社大遷宮 「大出雲展」(京都国立博物館)について

古代出雲歴史博物館 専門学芸員 平石 充

今年西暦2012年は、<sup>おのやすまろ</sup>太安万侶が古事記を編纂した712年から数えてちょうど1300年を迎える記念の年です。島根県では、この2012年を中心に、「神話の国しまねプロジェクト」を展開していますが、当館では、京都・東京のそれぞれの国立博物館と連携して特色ある島根の文化財を紹介する展覧会を企画しています。

今回お話しするのは、京都国立博物館「大出雲展」です。島根県では、当館が開館する以前の1997年に、同じく県内の文化財を広く紹介する古代出雲文化展を東京・大阪で開催し、好評を博しました。来る展覧会では、その古代出雲文化展とは異なるコンセプトや展示を計画しており、古事記編纂1300年の年にふさわしい、新しい出雲像を来館者の方々に提供したいと考えています。

まず第一に、展示には2000年以降の発掘や調査研究の成果を展示に盛り込みました。著名な展示品としては、ちょうど2000年に発掘調査された、鎌倉時代出雲大社本殿の巨大柱を含む出雲大社境内遺跡の出土品があります。また、この出雲大社境内遺跡の調査と前後して、県内では古代の神社や神社の起源となるような祭祀遺跡についての発掘調査が相次ぎ、さらには、古代文化センターを中心とした神像・仏像の研究も進展しました。出雲大社をはじめとする神社の起源や、神仏混淆<sup>こんぶこう</sup>の歴史など、まさに神々の国「島根」を実感できる文化財を展示します。

第二には、今回の展覧会の開催、展示品の選定にあたり、京都国立博物館と当館共同で県内社寺の資料調査を実施しました。この調査によって、その歴史的価値があらためて明らかになった資料も数多くあり、その中で特に精選した資料を展示します。一部の資料は…今回の展覧会が初お披露目となります。

第三には、短い準備期間でしたが、古代文化センター・埋蔵文化財調査センターの協力を得て、従来から知られていた文化財についても今回の展示を期に再検討を実施してみました。その結果は、出雲の神話・伝承と深い関わりのある考古資料に大発見が…ということで、ここから先は、今後の島根県の文化財に関わるニュースにご期待ください。

以上、「大出雲展」は、出雲について従来とは違った切り口・展示品から迫る展覧会です。

当館の常設展や企画展で、出雲の歴史に慣れ親しんだ皆さんも、是非京都国立博物館に足を運んでいただき、あらたなる出雲像を体感していただければ幸いです。

古事記1300年・出雲大社大遷宮

特別展覧会

# 大出雲展

【会 期】

平成24年7月28日(土)~9月9日(日)

【44日間】

【会 場】

京都国立博物館

(京都市東山区茶屋町)

主催：京都国立博物館、島根県、島根県立古代出雲歴史博物館、  
NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、読売新聞社



## ◆「炎」でつながる四館合同企画

## 炎の力 ～土器から陶器へ・青銅器から鋼へ～

島根県立古代出雲歴史博物館・和鋼博物館・島根県立八雲立つ風土記の丘・島根県立美術館の四館では、平成24年春から秋にかけて「炎の力」をテーマに合同企画を開催いたします。春は、青銅を溶かし鋼を鍛える「炎」をテーマに、和鋼博物館において「鋼」を、当館において「青銅」をとりあげ展覧会を開催します。夏から秋には、八雲立つ風土記の丘と島根県立美術館において、土器から陶器へと土を焼き固める「炎」をテーマに展覧会を開催します。

古事記編纂1300年をむかえ、「神々の国しまね」から四館が連携し熱い思いを込めて「炎の力」を全国に発信します。どうぞご期待下さい。



## ◆安来ゆかりの貴重な大刀の里帰りが実現!

## 四館連携「炎の力」和鋼博物館春季特別展

古代出雲の装飾付大刀 ～遥かなるいにしへの“<sup>わざ</sup>巧”と“美”～

「鉄の歴史ミュージアム」として知られる和鋼博物館では、安来市出土の貴重な装飾付大刀をはじめ、古代刀剣復元品の数々を一堂に展示し、古代出雲の豪族の盛衰や大和朝廷との結びつきをひもときます。古代出雲歴史博物館もこの展覧会に全面的に協力し、ゆかりの文化財等を多数出品協力します。

- 会期／平成24年4月14日(土)～5月13日(日) ※会期中の休館日は4月18日(水)・25日(水)・5月9日(水)
- 会場／和鋼博物館(安来市安来町1058) ●入館料／一般500円・高校生400円・中学生以下無料
- 問合せ／電話0854-23-2500

お知らせ

古代出雲歴史博物館では、和鋼博物館で開催されるこの展覧会に出品協力するため、「青銅器と金色の大刀」コーナーで常設展示している安来市ゆかりの装飾付大刀の一部を3月下旬から5月下旬までの間、ご覧いただくことができません。代わって当館「青銅器と金色の大刀」コーナーでは、期間限定ミニ展示「出雲の埴輪(仮)」を開催いたします。こちらもどうぞお楽しみに。  
\*展示替えの情報は3月上旬以降当館ホームページ等でご案内する予定です。

## [まいぶんセンター通信]

## 島根県埋蔵文化財調査センター

## とっとり・しまね発掘速報展 好評開催中!!

島根県埋蔵文化財調査センターでは、発掘調査の成果をいち早く皆様にご覧いただくため、鳥取県と連携して毎年「とっとり・しまね発掘速報展」を開催しています。今年度は鳥取県倉吉博物館で1月7日からスタートし、2月4日から3月4日までの間は安来市和鋼博物館で開催しています。島根県側の主な展示物としては、松江市西川津遺跡から出土した弥生時代前期の木製壺形容器、出雲市山持遺跡出土の朝鮮半島系の土器、大田市庵寺古墳群出土の前漢鏡などがあげられます。

なかでも注目されるのは、松江市東出雲町島田1号墳出土の男性の人物埴輪です。この古墳は今から17年前に発掘調査されたものですが、このたび埋蔵文化財調査センターで埴輪の再整理を行ったところ、全体像がほぼ判明したことから今回急遽展示することになったものです。人物埴輪は造形や表現が非常に優れたもので、畿内政権の埴輪工人が関与したものと考えられ、5世紀後半の出雲と王権との関係を知る上での重要な資料です。

また、鳥取県出土の資料では、弥生時代終末期の墳墓が発見された石井垣上河原遺跡の出土品、「地下の弥生博物館」と称される史跡青谷上寺地遺跡の出土品など、注目すべき遺物が多数展示されています。会期はあとわずかとなっておりますので、ぜひ和鋼博物館まで足をお運び下さい。お見逃しなく!



松江市島田1号墳出土の人物埴輪



西川津遺跡出土の壺形木製品

# 匠の技を復原する

古代文化センター 専門研究員 角田 徳 幸

古代文化センターでは、平成25年1月18日から開催予定の企画展「匠の技—弥生木製品から出雲大社まで—」の準備を進めています。木は人にとって最も身近な素材であり、農具・漁具・食器・家屋など、生活の様々な場面で使われてきました。特に、森林資源に恵まれた日本列島では、木の利用が暮らしの隅々にまで及んでおり、我が国の文化は木に代表されるといっても過言ではありません。とりわけ山陰は、弥生時代から豊かな木の文化が展開したことで知られており、その優れた技術は出雲大社の建築などにも受け継がれています。今回の展覧会では、復原した斧による樹木の伐採・製材や、木製容器の製作など実験考古学の成果を盛り込んで、木製品の製作技術を分かりやすく紹介します。

弥生時代の木製品を製作する道具としては、石製工具と鉄製工具の2種類があります。鉄製工具の登場は、木の伐採・加工、製品製作の効率を飛躍的に高めたと思われませんが、どのくらいの差があるか比べるため、復原した石斧と鉄斧による伐採実験を行いました。対象とした木は径20cmほどのクヌギで、切り倒す時間は石斧で9分20秒、鉄斧は4分36秒でした。石斧は鉄斧の2倍の時間が必要でしたが、意外に早いというのが印象です。

木を伐採した後、木製品を作るには木を割り、板に製材する必要があります。製材実験は、長さ3.5m・径47cmのスギ材にクサビを打ち込んで分割し、割れた面を石斧と鉄斧で調整しました。分割作業は、材の根元側からクサビを打ち込み、側面の裂け目が広がった段階で繋がったままの繊維を鉄斧で切って、31分ほどで終わりました。その後、割れ面を石斧と鉄斧で平らにしましたが、粗い調整をするのには重さのある石斧も有効でした。ただ、石斧では小形斧で再調整する必要があるのに対し、鉄斧は小形斧1本で仕上げることができました。

弥生時代の容器は、鳥取市青谷上寺地遺跡出土の花弁形高杯に代表されるように優れた製品が多数知られています。現在、復原製作を進めているのは出雲市海上遺跡の舟形容器、松江市西川津遺跡の装飾把手付鉢、青谷上寺地遺跡の花弁形高杯などです。花弁形高杯の製作方法をめぐっては議論がありますが、今回はろくろを使って削り出す「挽き物」として製作を進めています。大形品は、出土遺物の観察から坏部と脚部を別々に作って接合するやといざね履柄という技法で作られたことが分かっており、同じ技法で製作を進めています。

古代出雲歴史博物館で開催する企画展では、ここで紹介した木製品の製作技術の他に、木製品から見た地域交流や、祭りに使われた木製品、さらには現在行われている出雲大社の屋根替え工事に駆使される技術まで多様な側面から木の文化を紹介する予定です。ご期待下さい。

●平成25年1月18日(金)～3月17日(日)

企画展 匠の技—弥生木製品から出雲大社まで—



クサビ割りによる材木の分割作業



ろくろによる花弁形高杯の製作

## [アテンダントからのお知らせ]

### 毎月第3日曜日は小中高生の観覧料が無料!

古代出雲歴史博物館では、毎月第3日曜日の「しまね家庭の日」は、小中高生の観覧料が無料になります。

この日に、アテンダントの企画したファミリーツアー「はくぶつかん散歩」や、展示品BEST 10をわかりやすく紹介する「れきはく紙芝居」を実施しています。4月からは新しい企画も考えていますので、毎月第3日曜日にご家族みなさまで博物館へお出かけください。

# 企画展 スケジュール

平成24年—平成25年

●平成24年5月の休館日は  
5月22日(火)です

平成24年3月16日(金)▶5月16日(水)

会期中の休館日：3月21日(火)・4月17日(火)

企画展

神々の国しまね 開館5周年企画展

## 弥生青銅器に 魅せられた人々

—その製作技術と祭祀の世界—



平成24年6月1日(金)▶7月8日(日)

会期中の休館日：6月19日(火)

特別展

世界遺産登録5周年記念

## 石見銀山 —その繁栄と文化の継承—

神々の国しまね 水木しげる原画展



平成24年7月21日(土)▶10月8日(月)

会期中の休館日：8月21日(火)・9月18日(火)

特別展

神々の国しまね

## 写真展「八雲立つ出雲」

植田正治、上田正昭が歩いた「神々のふるさと」

7月21日(土)

神話博しまね

平成24年10月26日(金)▶12月24日(月)

会期中の休館日：11月20日(火)・12月18日(火)

企画展

## 戦国大名 尼子氏の興亡

11月11日(日)

平成25年1月18日(金)▶3月17日(日)

会期中の休館日：2月19日(火)

企画展

## 匠の技 —弥生木製品から出雲大社まで—

# 巡回展

古事記1300年・出雲大社大遷宮

特別展覧会 「大出雲展」

●平成24年7月28日(土)▶9月9日(日)

●会場：京都国立博物館

古事記1300年・出雲大社大遷宮

特別展

「出雲—聖地の至宝—」

●平成24年10月10日(水)▶11月25日(日)

●会場：東京国立博物館

# イベント 予定

古代出雲歴史博物館開館5周年記念

「だんだん3days」

●平成24年3月9日(金)▶11日(日)

■9日(金)・10日(土)・11日(日)の3日間  
常設展観覧料無料

■10日(土)／「だんだん餅つき」  
つきたてお餅のふるまい

れきはくまつり開催

●平成24年5月12日(木)▶16日(月)

■詳細は今後ホームページ等でお知らせ  
します。

# 出雲大社「平成の大遷宮」御本殿大屋根特別拝観

最終拝観のご案内

今回の大屋根特別拝観は、60年ぶりの修理が整った御本殿の様子を間近にご覧いただく絶好の機会です。この拝観期間が終了した後の3月より、いよいよ御本殿を覆う大きな素屋根の解体が始まります。したがって、「平成の大遷宮」での特別拝観は今回で最後となります。

●期 間／平成24年2月17日(金)～29日(水)〔13日間〕

●時 間／午前9時～午後4時30分迄

●拝 観 料／無料（但し、事前申込みもしくは当日整理券が必要）

●拝観受付／御仮殿東テント

※拝観にあたっての注意事項や拝観の服装規定等ございますので、ホームページ等でご確認ください。http://www.izumooyashiro.or.jp

## お問合せ先

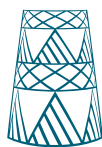
■出雲大社社務所（8:30～17:00）  
〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東195番地  
TEL0853-53-3100 FAX0853-53-2515

■出雲観光協会（月曜定休日／9:00～17:00）  
〒699-0721 島根県出雲市大社町修理免735-5番地  
TEL0853-53-2112 FAX0853-53-5856

■島根県観光連盟（平日のみ／9:00～17:00）  
〒690-8501 島根県松江市殿町1番地  
TEL0852-21-3969 FAX0852-22-5580

■出雲市観光交流推進課（平日のみ／9:00～17:00）  
〒693-8530 島根県出雲市今市町70番地  
TEL0853-21-6892 FAX0853-21-6585

発行／平成24年2月



島根県立古代出雲歴史博物館  
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350  
URL : http://www.izm.ed.jp E-mail : contact@izm.ed.jp  
開館時間 9:00～18:00(11月～2月は、9:00～17:00)



マスコットキャラクター  
雲太くん



マスコットキャラクター  
出雲ちゃん